

令和元年度 第1回
薩摩川内市総合教育会議
会議録

開催日時：令和2年3月17日（火） 開会：14時00分
閉会：16時20分

開催場所：薩摩川内市役所 5階 教育委員会室

出席者：

岩切市長、藤田教育長、三本教育長職務代理者、上川教育委員、軍神教育委員
枇杷教育委員

事務局：

（市長部局）

田代総務部長、古里総務課長、花木スポーツ課長

（教育委員会）

宮里教育部長、小原教育総務課長、村上学校教育課長、橋口社会教育課長
羽田文化課長、池田少年自然の家所長、山口中央図書館長、

傍聴者：なし

資料：別紙による

議 事 録

令和 2 年 3 月 1 7 日 (火)

【開会時刻 14:00】

(1 会次第1:開会のことば)

総務課長 ただいまから、令和元年度第1回薩摩川内市総合教育会議を開会いたします。本日は、議題が3件ございますのでよろしくお願いいたします。
それでは、岩切市長にご挨拶をお願いいたします。

(2 会次第2:市長挨拶)

岩切市長 こんにちは。この会議が開催されるようになりまして、6回目ということになります。日本全国の首長が教育行政について、このままではいけないということで、色んな討論がされ、議論がされまして、この教育委員会制度というのが改正されまして、首長が主催する総合教育会議を設置するようになりました。今回は教育長が藤田教育長に代わり、また枇杷委員が新しく選任されたこともあって、この会もメンバーが変わりました。いずれにしても、この会議によって薩摩川内市の市政と教育行政が立派に発展するよう、みんなで力を合わせて取り組んでいかなければならないと思っています。特に事務運営においては、色んな調査をしながら、委員の皆さん方に資料提供をしていかなければいけないと思っていますので、今後更に各課に調査していただくと共に、素晴らしい教育行政ができますことをお願いしまして挨拶とさせていただきます。

今日は議題が3件ですので、色んな意見を出していただければ大変有り難いです。よろしくお願いいたします。

総務課長 ありがとうございます。それでは、これより議事に入りますが、ここから議事の進行を市長をお願いいたします。

(3 会次第3:議題1「薩摩川内市教育大綱(案)」について)

岩切議長 それでは、議題1の「薩摩川内市教育大綱(案)」について、事務局から説明をお願いいたします。

※会議資料に基づき藤田教育長、宮里教育部長が説明

岩切議長 ただいま説明が終わりましたが、委員の皆さんは何かご意見はないでしょうか。

今説明がありましたとおり、市総合計画の基本計画を現在、策定中であり、できれば来週中には最終的な取りまとめをする考えであります。

審議会等も終わりました、意見もいただいておりますので、最終的に市の執行会議を開き、経営会議を開いた上、決定する予定であります。したがってそこでまた変わってくる文章があれば、当然こちらも変わるということでご了承いただきたいと思っております。

議題1については特にないですか。よろしいですか。では議題1については承認していただけますか。ありがとうございました。
承認されました。

(4 会次第3：議題2「薩摩川内市教育振興基本計画（第2期・前期）（案）」について)

岩切議長 それでは、議題2について、事務局からの説明をお願いいたします。

※会議資料に基づき宮里教育部長が説明

岩切議長 議題2について今説明が終わりました。何かご質問はないですか。

三本委員 基本計画の中の、2ページの現状について2点ほどお話してよろしいですか。現状についてのあり方でもよろしいですか。2ページの2の(3)、学校フッ化物洗口事業についてということで、薩摩川内市はフッ化物洗口をやってきておりますが、それについて取組の見直しというか、検討というかお願いしたいと思う点があります。12ページに学校保健の状況というのがありますが、ここで昨年2月の全国の虫歯の保有者数がありますが、鹿児島県は全国に比べてこのグラフでも高い位置にあります。本市はフッ化物洗口をずっと取り組んでおりますけれども、学校訪問する中、現状として歯周病の子供たちが非常に増えてきていると聞きます。この歯周病は大人の病気であるのに、すでに子供たちに広がっているということは、やはり歯茎や歯肉のフッ化物洗口をすることによって、虫歯にならないんだという安心感があるのか、歯茎のマッサージをやっていないと、歯茎、歯肉自体が弱くなっていき、そのことによってせっかく生えてきた永久歯が抜けてしまう可能性があります。つまり、フッ化物洗口をやっているから大丈夫というのではなく、ブラッシングをきちんとやっていく必要があると感じることでした。

それから、10ページの基本的生活習慣の状況という所で、朝食や就寝について記述がありますが、基本的習慣の乱れが見られ、朝食を食べてく子、こない子がいるのでは。ここでは本市の場合は小学校ではちょっと全国より高め、中学校では低い傾向にあるということではありますけれども、朝食の中身が菓子パンを1個という形であったらどうなのかなと思います。文科省が行った小中学生の全国学力調査の結果、朝食を食べている子はやはり学力が高く、そして運動能力も高いということでした。それから、脳科学者の川島隆太さんや農水省の共同研究によりまして、脳をしっかり動かすためには、最低3種類は食べた方がいいという結果が出ています。やはり菓子パンを食べるのであれば、菓子パンと牛乳とヨーグルト、

ヨーグルトの中にもりんごかバナナを入れるとか、そうすることによって脳が動き出す、そして集中力が高まっていく、集中力が高まることによって、その毎日の積み重ねが中学校、高校になってから、学力の持続が保てるというデータが出ているようです。そのことが文部科学省のホームページの中の『家庭教育手帳』にも載っています。どの保護者も学力を上げたいと思っていられるので、それを保護者にも見ていただき、夜遅くまで起きていると朝起きられないというパターンが悪くなっていくので、そこを含めてサポートができるようにしていただければなと思っています。

それから38ページの二学期制については、「業務改善の推進状況を見極めながら、有効性を研究してまいります」という文言がありますが、私が自総審の委員もさせていただいており、会長が、「二学期制につきまして、現場、保護者の理解が得られていない。情報のみが独り歩きをしているように感じる。県内ではほとんど進んでいない。市長とのすり合わせをしてから動くべきではなかったか。」という意見を言うておられます。有効性についても検討するという事は、二学期制において有益なこともありますけれど、課題点もあるということなので、この文言については、ちょっと疑問を感じるところです。それだけお願いします。

岩切議長 ありがとうございます。今3点ほどありました。まず1点目から整理をしていきたいと思えます。

12ページのフッ化物洗口をずっとして、成績がいいということだけれど、歯磨きをしないということの問題があるのではないかとということで提案なんです。学校での歯磨きの状況は事務局は調べたことがありますか。アンケート調査とかしたことはないですか。

学校教育課長 具体的に調査はしておりませんが、給食の後すぐに全ての子供が歯を磨くような指導をしております。

枇杷委員 私は、最初のうちからずっとフッ化物洗口に薬剤師として関わってきて、小学校では給食の後にほぼ全ての学校で歯磨きをしていると聞いています。あと、虫歯は減ってきますが、歯科の先生が推奨されている訳ではないですが、痛くなったら歯医者さんに行くのではなくて、歯医者さんともっと仲良しになって、月1回とか2か月に1回程度定期健診のように歯は大丈夫なのかと、痛くなくても歯医者さんに行くように少しずつなっていくといかないといけないというように、教育をしていかないといけないのではと感じています。一番フッ化物洗口で心配していたのが中学生です。幼稚園や保育園、小学生低学年は特に保護者の方が仕上げ磨きをしていることが多いんです。子供だからちゃちゃちゃと済ませてしまうという現状もあります。それがだんだん中学校になると、子供も嫌がります。親による仕上げ磨きとかは、フッ化物洗口をしてとても感動したのが、甌島の下甌でウミネコ留学生を預かっていらっしゃる里親の方が、自分たちは一生懸命「歯磨きしたの？」と声かけを子供たちにしても「したした。」と返事をしたにもかかわらず、歯ブラシを触るとしていない様子もあるようです。虫歯を減らすために、下甌では合併前からフッ化物洗口をしていたので、とても理解があつて、自分たちが指導をしているだけではなかなか虫

歯が減らないので、是非フッ化物洗口をという期待がありました。三本委員がおっしゃるみたいにブラッシングがとても大事で、歯周病予防にブラッシングが必要というテレビコマーシャルでもやっていますが、学校でも勿論指導をしていただきたいという希望はあります。しかし、やはり家庭がとても大事なことなので、学校と家庭が協力をしてほしいと思います。今教育に関してすごく一生懸命される家庭と、結構ほったらかしになっている家庭とがあって、その辺の対応がとても難しいかなとも感じています。

岩切議長
軍神委員

今のことで他にありますか。

現場でフッ化物洗口を実際にやっていました。確かに最初は色んな薬品のフッ素を用意したり、その準備を誰がするのか色々な課題もあって、先生たちも話し合い、子供たちとも話し始めました。中学生も従順ですので、「こうやってやるんだよ。」と見せると、確かに慣れてくれば、女子生徒はしっかりします。反面、男子生徒は少し薄くなる部分もありますが、全体的にはきちんとするように担任も見届けています。やっぱり女子生徒は歯や、やっぱり美に関しては一生懸命やりますし、先ほど枇杷委員がおっしゃったように、フッ化物洗口をすることによって歯ブラシを持つことや歯に対する姿勢というのは学校では変わってきますが、家庭でしているかとなると、やっぱり難しいのかなと思います。それから歯医者に行くというのも、例えば川内北中と川内南中の場所が違うように、歯医者があるかないか、学年によって、三年生は塾に行くので時間がない、二年生や一年生は部活動をするから時間がないとか色々ありますが、そこは親が自分の子供に対してきちんとしなければ、歯についての意識というのは上がらなかったという傾向がありました。

上川委員

そのとおりだなと思いながらお聞きしていましたが、やはり家庭での習慣がすごく大事で、子供にしなさいと言うだけではなく、親自身もしっかりする姿を見せなければならぬなど、今自分の事としては捉えたところでは。

岩切議長

いずれにしても歯磨きは小さい頃からずっとしていかなければなりませんし、歯周病等にはならないと考えると、教育委員会としてもどこかですることを薦めることが将来にとってもいいと思いますので、せっかくこのフッ化物洗口については議会でも相当議論が出ました。過去にどちらがいいかということで、しかしこちらの方がいいという選択を今までしてきましたので、併せて歯周病対策として歯磨きの励行はやっぱりどこかに入れておいて 家庭でもきちんとしてもらおうということが、市としてはいいのではないかと思います。その文言は事務局の方で整理をしてください。

フッ化物洗口とその次は朝食の関係ですね。朝食を摂る人は学力も体力も上がるというような傾向にあるということは、これはそうだろうと思いますが、どんな指導を今していますか。家庭環境にもよるとは思います。親が朝食どころではなくて、それが習慣になって食べてこない人もいるかもしれないけれど、三食しっかりと食べなさいということについてはどう指導をしていますか。

学校教育課長 欠食の児童、生徒がいる関係で、第4章の33ページの(3)(ア)の

項目の中で、「朝食を食べなさい。」と言うだけではなくて、実際に学級活動を中心とした食に関する指導をさらに充実させ、栄養をしっかり摂ることの大切さやバランス良く食べることの大切さ等の指導をして、食べる意味をしっかり理解させた上で、朝食を摂るようにこれからも指導していきたいということから明記したところでございます。

岩切議長 よく話題になりますが、市として小学校、中学校、例えば2年に1回、3年に1回こういうアンケートを取ったことはないですか。朝ご飯を食べているか、食べていないか、これは何かデータがありますか。

学校教育課長 全国学力・学習状況調査の質問紙の中にあり、全国と本市の子供と比較しているところでございます。小学校では、全国比0.6ポイント欠食が高いという悪い傾向です。中学校では、全国比-3.5ポイントで、全国平均より朝食を抜いている子供は少ないということで、良い傾向です。これは平成30年度のデータで、平成24年度から毎年の全国調査で一緒に取っているところです。

岩切議長 藤田教育長に薩摩川内市に来ていただく前に、私から、「とにかく薩摩川内市の学力が、県の平均よりも劣っている科目が多くて、これではやっぱり19市の中では、まずいのではないかと……。課題は学力を上げてもらうこと、体力を上げてもらうこと、これだけは頑張ってください。」ということを書いてきました。朝食を摂る人たちが学力も上がってくるとか、学力に関する食事等についてデータがあるのであれば、それらを使って何か指導をしていかないと学力は上がらないわけで、一つの方法として指導した方がいいのではないかと思います。33ページの「ご飯を食べなさいよ。」ということの大切さを指導していくということはどうですかね。ここをまた強調していくようにすればいいですね。

それからもう一つが、二学期制のことですが、ちょっと私の考えを申し述べたいと思います。本市の二学期制をどうしようかということで、教育委員会がそれについての説明会等もしましたが、結果的に断念しました。これはまだ時期が早いという理由からです。まず保護者や教職員、その他色々な方々の意見があまりにも大きいという実態がありました。前回のこの会議の中で私から、まだ早いと宣言しました。そして、もう一回見直しをしたらどうか、いい所ばかり言っても結果的にまずかったところが出てきてもいます。データを見ても分かるとおりに、二学期制にして悪かったからまた三学期に返したという自治体がどんどん増えてきたという事例があって、ちょっと今考えれば議論はまだ早かったのかなと思います。教育委員会がブレたというのが一つの大きな原因だと私は思います。東郷学園を創る時に、まず開校するにあたってモデル的に東郷学園を二学期制にするということでスタートしましたが、保護者を含めて、二学期制については反対という結果でした。その後これをまた見直しをして、今度は市内全校でやろうという教育委員会の考えが出てきたものですから、モデルでやると言ったのにも関わらず、それを変えて全校でというのはなお難しくなったわけです。これは議会からも相当な意見ももらいました。私自身も実際にそれについての調査を試みるということで、二学期制を実施して

三学期制に戻した自治体や、三学期から二学期制にした自治体の首長の意見を聞いてみました。さらに元々、二学期制というのは何か、三学期制というのは何かということ、上京した時に文科省に行きまして質問しましたところ、文科省の室長が、この二学期制がスタートした時をよく知っている方であるということで質問しましたところ、私どもが教育委員会が出された意見よりはるかに全然違ったものでした。その室長によれば、全国の観光連盟協会から、二学期制は文科省に提案を出されたということでした。観光に力を入れている所は一举に休み中に修学旅行生がどっと来ると、一般の人たちも来て、時期的にはばっと増えるけれど後はいなくなる。なかなか観光として、これではいけないから二学期制になれば学生を先に来てもらって、学生が学校に行っている間に他の人がいれるということから、観光行政から要望が出てきたというのが一つあったようです。もう一つは、北海道から九州まで、早く夜が明けるところと遅い所と、また冬と夏の状態に大きな差があり、時間差的に約制が出てきたということで実現したようです。どちらがいいとは文科省ももちろん言いませんけれど、データを見ると二学期制が一番ピークだったのが小学生が平成23年で21.9%です。そして中学校が23.0%で平成21年です。それからどんどん減ってきているんです。30年度のデータでは、小学校が19.4%、中学校が18.6%ということで、どんどん今減っています。したがって、しかも鹿児島県ではどこも二学期制は実施していないので、モデル校もないということがあり、時期が早いということで時間を置いた方がよいと決断しました。二学期制については総合計画の中でも見直しをしないとイケないなと思っています。先ほど三本委員から自総審の話が出ましたが、自総審でも意見が出されています。最終的には経営会議で決めますので、ちょっと調整を試みたいと思いますが、了承していただければいいと思います。教育部長も委員になっていますから、私が意見を聞きますから、その時検討していただくということで。三本委員は三点でいいですね。

ほかの方向か意見があればお出してください。39ページ(10)で、鹿児島純心女子大学との連携というのがあります。これについては、教育学術新聞を教育委員会事務局は見ていると思うんですけど、委員は誰も見ていらっしやらないと思いますので、後でコピーをして委員の方々にも情報提供をしてください。この新聞にこれだけ大きく純大が載っていますので、勉強をしておいてください。市としても誘致した大学でありますし、どんどん大きくなってほしいですけど、少子化問題が出てきてうまくいっていない面もあるようです。地元との連携を十分とってくださいという趣旨で誘致した大学ですので、多くの学生と意見交換をしたりする場をずっと今日まで作ってきています。そういう人たちが薩摩川内の大学を出たということで、また帰ってきてもらう機会を多く作ろうというのが趣旨でもありますので、この連携については強調していただいていると思います。

その他、何かないですか。

枇杷委員

まだ何も分からないのですが、ただこの計画を見させていただいて、素

晴らしい計画だなと思っています。今まであまり知らなかったのですが、すごいなと思いました。また、最初の議題2の1ページで、「ふるさとを愛する心を育てます。」というのは素晴らしい言葉だと思うんです。それから、市長が学力向上ということをおっしゃっているんですけど、実は三本先生がご紹介された『ケーキの切れない非行少年たち』という本を読ませていただいた時に、発達障害の子供たちが結構多いということが分かりました。私は昨年11月に就任後、まだ1校しか学校訪問はしていませんが、先生方の授業を観て、すごい感動しました。素晴らしい授業をされてるなと思いました。やっぱりその中でも発達障害の子供たちがいるようでしたから、本の中では小学校二年生までにそういう見極めをしていって、とても素晴らしい能力を持っている子に対する支援の体制は何かないのかなと思っていました。それもきちんと計画の中に盛り込まれているんですね。学校支援のためのボランティアがあったり、その他色んなものがあるというのも、きちんと盛り込まれているんですけど、不登校の子供たちに対する取組に対しては、連携がとても大事であり、絶対に教育委員会と学校だけでの取組ではいけない現状があります。私がたまたま薩摩川内市男女共同参画宣言都市で、フォーラムの方に関わっており、昨年来てくださった豊中の勝部先生がとても素敵なお方で、不登校の子供たちにも関わりを持たれていらっしゃると思います。社会福祉協議会の職員の方なんですけれど、本の中でも社会福祉協議会や学校関係とか、色んな所が連携をして、その子供たちに色々関わりをしているということでした。この計画は本当に素晴らしい計画であり、資源として学校を支える色んな地域の方やボランティアの方たちが、組織をちゃんと作って、そういう発達障害の子供たちや不登校で学校に行けない子供たちも、薩摩川内市にとって宝物ですが、素晴らしい能力を持っている子供たちの能力が少しでも伸ばせるように、うまく持っていければ、もっと学力もきっと向上するでしょう。それからカンガルー事業に関わっている友達と話をしたんですけど、今回の学校の臨時休業期間、塾に行っている子供と行っていない子供の二極化がすごく見られるそうです。つまり学力を高めたいという意識を持った家庭の子供たちは、塾に行ってすごく勉強をしており、一方、ほったらかしで、ちょっとネグレクトにあっている子供たちは、家でほったらかされている状況があったりするのではないのでしょうか。そのような点を教育委員会や学校だけで何とかして欲しいと言っているのではなくて、地域の方の力を盛り込んで進めていくことができると薩摩川内市のことがとても好きになり、愛する子供たちに育てていくということは、すごく素敵だなと思います。学力が向上して県外の大学に行くと、薩摩川内市を離れてしまうことにもなりますが、薩摩川内市が大好きという子供を育ててくだされば、いずれ帰ってきて、薩摩川内市で生活をして、薩摩川内市のために何かしたいという子供が育っていくのかなとも思います。初めてですので、半分は感想みたいな感じになってしまいました。

岩切議長 ありがとうございます。発達障害児とか不登校問題についての意見を述べていただきましたけれど、この項目の中のどこかありますか。

学校教育課長 まず、特別支援教育の充実の項目で、36ページにあります。発達障害児や知的障害等も含めて、心配なお子様は、まず専門家との教育相談等で状況を把握していきます。そして、それを基に通常学級、或いは支援学級、或いは支援学校それぞれの子に合った指導をしていくことになります。またそれぞれの子供に応じた計画を作成して、特別支援教育支援員等でその子に応じた支援をしていくといったような取組をしているところでございます。今後もそれについては充実をさせていきたいと思っております。それから、不登校につきましては、32ページの一番下の項目、不登校の対応という所を書いてあります。不登校の子供に対しては、適応指導教室であるスマイルルームでの対応をしております。連携という点では、その次の二行目の心の教室相談員やスクールソーシャルワーカーの対応をしています。例えば、スマイルルーム（適応指導教室）にも行けない子供については、実際に家庭に訪問をして、子供の悩みや保護者の心配事に耳を傾ける活動もしています。併せて生徒連絡会では、子供同士の自浄作用で自信をもって学校に行けるような子供をつくるのがねらいです。それから不登校の子供につきましては、それぞれの状況に合った支援計画、これを各学校で作成して、それを基に支援をしていくという計画をとっているところでございます。

藤田教育長 補足させてください。先ほど枇杷委員からお話しされた『ケーキの切れない非行少年たち』について、これは少年院等に入所している子供たちへの対応について、精神科医が書いたものです。子供たちが学ばなければならない時に、例えば家庭で、お箸の持ち方を教わっていないとか、或いは、人とのコミュニケーションを図る時に、目を見て返事をするなど基本的なしつけを受けていないことが要因の1つであるということが書いてあります。先ほどから家庭教育の充実や大切さを委員が説かれておりますが、問題行動そのものが悪いのではなくて、子供たちの認知能力に関係あるとそれが書いてあります。これを読んで、先ほど枇杷委員が、特別支援学級の発達障害の実態等も話されましたが、今年度、本市におきましては、小学校で270人が特別支援学級に入級しています。学級数については56学級。中学校ではちょうど100人、そして21学級、義務教育学校で、前期で15人の3学級、そして後期で7人の1学級。これは平成27年度から全県下でも毎年140学級位ずつ、クラスが増えております。来年度も全県下で140以上の学級が増えていくとのこと。知的障害児学級と情緒・自閉障害児学級を比較しますと数倍も情緒・自閉障害児学級が多いところです。文部科学省の調査によりますと、普通学級の1クラスの中に5%から6%は発達障害の子供がいると、統計的には言われております。今後も増えていくことが予想されています。特に発達障害の子供は、大勢の中で静かに学習するということが苦手な傾向があります。先ほどおっしゃいました特別な能力を持っているという、いわゆるアスペルガー症候群と言われている、何か秘めている、そういう能力をじっくりと育てていく教育が大切です。このような子供たちは時間をかけて、徹底して納得するまで知りたい、学びたいという傾向があります。

それにみんなと同じ事をするのが非常に苦痛だということも。それから聴覚過敏な子は、「わー。」という教室の中では、落ち着きがなくなって、感情が爆発してしまうこともあります。その後、静かな所に連れて行って落ち着かせるとまた元に戻ります。中には味覚過敏の子もいまして、給食でビーンズ、豆類を食べることが苦手とか、コロッケやフライを食べることが苦手とか、これも発達障害と診断されております。様々な特性の子供がいますので、それが悪いということではなくて、その認識を今、就学前教育の中でも幼稚園、保育園等で早期に見つけて、療育の所で、訓練を重ねていきます。発達障害の子供たちは訓練を多く経験させることによって、自制心が芽生えて、それから自立していくので、早期からいろいろな生活経験をすることが大事だと言われております。そういうことから、特別支援教育については、大分子算的にも、特別支援教育支援員も増やしていただきました。人との関わりをすることによって、成長に繋がるのだと思います。

不登校対策については、枇杷委員からあったように、地域の方が声掛けをしてくださることも必要ですが、学校という場は先生たちが子供たちを評価する立場ですので、学校側から「おいでおいで」という声掛けだけでは、子供は学校の楽しさが実感できません。そこで課長からもありました、専門的知識を持ったスクールソーシャルワーカーや心の教室相談員の活用等が非常に大事になるものと思います。それから本市で取り組んでおりますスマイルルームの子供たちが、少年自然の家で毎月行っている取組を紹介します。大人がセッティングしたものではなくて、自分たちで計画することによって、自己肯定感や自己有用感を得ているということについて、先日所長からも報告をもらいました。そのような取組は今後も継続していく必要があるだろうと思っております。長くなりましたけれども、補足させていただきました。

岩切議長 先ほど枇杷委員が言われましたが、さっき食べ物のこととか出ましたけれど、発達障害児をもつ親の研修会というか、教育委員会としてそういう研修会は1回もしたことはないですか。

学校教育課長 教育委員会として、保護者対象の研修会は、これまで行ってはおりません。

岩切議長 保護者は、自分たちで育て方は勉強するんでしょうか。一人ひとり個性が違うから分からないけれど、何か統一した指針のようなものが必要な気がします。

軍神委員 今、発達障害児の通う施設におりますので（発言します）。教育長と課長からもありましたが、そのとおりだと思います。障害者差別解消法ができて以来、世の中が合理的配慮のことやだいたい発達障害等を含む特別支援教育に向いてきています。ずっと以前は、保護者が障害のある子どもを納戸に隠したり、どこか遠くに隠していたりしていたんです。今そういう人はいません。私のつくし園に入れたいという保護者が次から次へ来ています。入所希望者が多くて、認識としては、すごく高くなってきているし、保護者会も作っていますから、その中で保護者同士も話をすることができます。

インクルーシブ教育という障害のある人もない人も共に共存する世の中を作ろうという考えのもとで、障害者施設や幼稚園、保育園に、私たちが出かけ行って、発達障害の子供たちについての支援の在り方等を含めた色々な事業についてもその職員に進め方を説明しています。しかし、一般分野においては、まだそれが十分になされていないというところがあるのではないかと思います。地域や企業でもよく理解しているところでは、発達障害の人を採用しています。先ほど言われたように、例えばアスペルガー症候群の子は、ものすごく計算ができてすごい子がいるんです。だけれど、その人にできたからといって次の日に違う仕事を渡したら、その人はパニクる傾向があると思います。世の中はだいぶ特別支援者や発達障害については認識が高くなってきているとは思いますが、合理的配慮という考え方や取組ができてから特に。現在、私たちが力を入れていることは幼稚園、保育園への働きかけです。私の園の子供たちの85%は幼稚園、保育園にも並行通園していますから、幼稚園、保育園の先生方も同じように手厚い指導をしていただければ、子供たちの伸びは大きな個性として期待できると思います。

岩切議長 市としては、教育は教育委員会です。そういう活動はしています。親の人たちに集まってもらって、親の人たちが必要で、行政ができる範囲内でどういうことがあるのか、の点について、意見交換をしたことがあります。例えば、トイレは障害者用がない等と色々な意見が出てきましたので、要望があった所は整備しているんですが、今質問があったようなことはやっぱり教育委員会ですなければならぬ仕事かなと思っています。いい意見をもらいました。ご意見ということで賜って今後の参考にして、教育委員会が動いてもらいたいと思います。

他に意見はないですか。

三本委員 今、特別支援教育の話が出ましたけれども、薩摩川内市の特別支援教室がどんどん増えていって、それに伴い支援員も増員していただいているので、非常に現場は有り難いかなと思っています。ただ、過去10年間で特別に支援を要する子供さんが2.5倍も増えています。小学校、中学校までは支援学級があるのでいいのですが、アスペルガー症候群の子供さんや自閉症、場面緘黙症、学習障害など、ある程度の学力は着いても、どこかに障害がある方は、今度は高校受験という大きな壁があります。鹿児島県内の高校では、そういう特別に支援を要するクラスはまだあまりないかなと思います。体制ができていないのでは。高校の先生方がそのような支援を要する子供さんが入学してきて、困っている現実もあろうかと想像します。「高等学校との連携」というところがありますので、そこで子供さんの特性等について情報提供ができるといいなと感じたところでした。

岩切議長 39ページ(9)ですね。

三本委員 高等学校との連携においては、子供たちはどんどん成長していく中で、中学校を卒業し、次の世界が待っているのです。そこでの学ぶ場をきちんと守ってあげられたらいいかなと思うことです。

岩切議長 今、高校はどんなふうになっていますか。

学校教育課長 一つは、ある程度の学力のある子供につきましては、県立高等特別支援学校があり、ここは選抜制度をとっています。県立川薩清修館高校も前から、支援員を学校独自で雇用して入れているという話も聞いているところでございます。私立高校では、特に情緒障害の子供を積極的に受けている鹿児島城西高等学校があります。できればそういった情報も各中学校と共有しながら、指導ができるようになればと考えているところでございます。

三本委員 川内高校には、学力的に非常に高い子供さんの中には、人間関係がうまくいかない人もいるので、担任の先生が、こういう障害を持っているということを知っていただければ、対応もまたあるかなというふうに思いました。

藤田教育長 鹿児島高等特別支援学校は、今年度93人の生徒が通っています。一人で通学ができるというような条件も入学にあたってはあります。それからある程度の知的理解ができるという、軽度の知的障害の子供を受け入れるということがあります。併せて試験等については一芸と言いますか、そういう能力を面接で紹介することを通して選考されているようでございます。それから、城西高校については、福祉共生専攻科がありまして、知的障害の子供たちを受け入れています。今年度、本市からも城西高校に進学する生徒がいます。

岩切議長 高校ですから、県教育委員会に言えばいいんでしょうが。県下の19市の教育長会議というのがあります。市長会もあります。県に対する要望事項として、教育長会議は教育長で言って、市長会は私が言いますので、同じ発言ができる文章を教育委員会で作っておいてもらいたいと思います。4月に市長会がありますから、要望事項として、例えば北薩地域にこうしてくださいとか、地域にもやっぱりそういう学級を作ってもらうように要望しましょうか。

藤田教育長 43市町村教育長会と県教委との意見交換会等もありますので、その場でしっかりと要求して参りたいと思います。

岩切議長 それでいいですね。他にないですか。

軍神委員 この基本計画を見てですね、私たちの時代の反省ですけれども、薩摩川内市と言え、小中一貫教育と英語教育と元気塾とこの三つが大きな柱です。小中一貫教育については、私たちは校区の特徴を出そうということで一生懸命、もちろん学力向上についても取り組んできたんですけども、今度はこの中で明確に学力向上に向けて、数値目標も示され、こういうふうにしていけばきっとうまくいく、学力も上がるというふうに思います。英語についても、英検の3級についても、50%は越えないにしても、県の平均よりは3級の人たちの取得は5ページにも載っているとおり、上がってきているんですね。こういうところで、やっぱり子供たちの意識も変わるし、今からも上がっていくのではないかと思います。このコロナ禍があったように、非常に不変な透明な時代に、子供たちが生きる力をつけなければいけないので、底辺となるのはやっぱり学力、体力でしょうから、そういう面では、これをしていっていただきたい、数値目標を是非達成し

ていただきたいなと思います。五年間とはいえ、今からの生徒数とか、世界の状況とか、非常に影響があるので、この五年間は非常に貴重な五年間じゃないかと思うので、その中でしていただきたいなと。

一つ聞きたかったのは、元気塾は今もあるんですか。これまでも十分にさせていただいたので。これは学校にとっては有り難い事業で、いつも素晴らしい講師を招くことができ、子供たちが喜んでいました。

学校教育課長 29ページの1の(2)二つ目の丸印の項目になります。

軍神委員 予算化されているということですよ。分かりました。ありがとうございます。

上川委員 たくさんの意見が出たので、一点だけに絞らせていただきます。コミュニティスクールのことなんですけれど、5ページと30ページと二か所載っているんですが、5ページには、令和二年度からコミュニティスクールが全ての中学校区で導入されること、それから30ページでは、その充実について書いてあります。今まで色んな課題が出ていまして、学校を取り巻く環境も変わってきており、先ほどから発達障害の子供さんが増えていること等。「社会に開かれた教育課程の実現に向け」という言葉が、大事なことだなと思っておりまして、教育課程を介してその理念を社会と共有することがとても大事ですよと教わりました。子供たちが社会や世界に向き合っていていくことの中で、教育課程を細かく計画して育てていくことが大事です。さらに、地域と学校が互いに当事者となって、共通の目標に向かっていくことが大事です。市教育委員会が前面に立って説明していくことも大事であると聞いたこともありますが、実際の今の現状を少し教えていただきたいのですが、よろしいでしょうか。

学校教育課長 今コミュニティスクールを行っていますが、令和二年度からは全ての中学校区で実施するところでございます。実際にコミュニティスクールとして学校運営協議会を開いている学校では、まず、年度初めに、中学校区の小学校長、中学校長がその年度の学校経営方針を説明して、それを地域の方と一緒に作る運営協議会で承認をしていただく。それを基にその年の経営を進めていくというふうな形となっています。承認の段階で質問があれば、共有して取り組んでいくという状況でございます。

岩切議長 東郷学園でこれを大きく打ち出してきたんですけど、今で一年ですけど、地域との効果は出てきていますか。

学校教育課長 東郷では、校舎内に地区コミの部屋まで作っていただいて、ごく自然に地域の方がそこで協議をしていただいたり、色んな活動を学校と地域と一緒にあって、子供に関わってもらっています。ですから、子供も地域の方の顔をよく分かっていて、登校状況を見ますと、本当に一体となって育てている様子がよくうかがえるところでございます。以上です。

岩切議長 2年位経ったらちゃんと検証しないとイケませんね。相当な高いお金をかけて造ったので。

他にないですか。

枇杷委員 一つだけちょっと心配していることがありまして、今コロナ感染防止のために学校がお休みになっているんですけど、家庭内での子供と、ゲー

ムの時間を何時間にしましょうとか、家庭内でルールを作っているのでしょうか。ゲームはとっても怖くて、依存症にもなっているんですね。麻薬と一緒に取り上げると暴れる事も発生するので、保護者たちには、情報提供くらいしかできないのかなという気もするんですけど、子供たちへの、「こんな風になっていっちゃうんだよ」と、ちゃんと伝えていくことが必要かなと思っています。今外に出るなって子供たちに言っていますので、家で何しているのかなと、とても今心配しているところです。ゲームに対する色々な取組が、あれば紹介していただきたいと思います。

学校教育課長 それについての対策としましては、33ページにあります。今、臨時休業している状況では、特に自由な時間が増えていると思いますけれど、通常の場合でも、子供によっては夜通し起きていて、昼夜逆転の生活になっている事例もございます。ですから、33ページの(3)たくましい体の育成のアの(ウ)の所にありますように、電子機器、スマートフォンやゲーム等の使用時間の適正化という項目で挙げているところです。特にSNS等も不安であり、ゲームの中で知らない人と繋がるとか、そういったところもあります。また、特に低年齢の子供が長時間すると脳への影響というのも心配されるところです。ですから、そこについては、先ほど出ました、例えば、薩摩川内元気塾の予算を使って、お医者さんなど専門家の講演会や、家庭教育学級等、色々な場面での啓発について、保護者も一緒に学習する機会に、各学校で工夫して取り組んでいるところでございます。以上です。

教育部長 併せて41ページにある、社会教育の関連で、家庭教育学級の充実の中において、それぞれSNSが抱える課題、関わり方等についても、今もやっていますはいるのですが、さらに、重要な課題として捉えており、また各学校の家庭教育学級でも、さらに取り組んでいただきたいと進めています。

岩切議長 一時間以内とか決めている所もあったですよ。初めから何時間でもしているんじゃないですか。まさか授業中にはしていないでしょうね。

教育部長 確か香川県が、このインターネットについての時間を規制するような条例の制定を検討しているということが、テレビで紹介されましたけれども、波及していくと思います。

岩切議長 それで効果が出るのであったらいいのですがー。(ゲーム機を子供から)取り上げることでかえってストレスがかかって突発的な問題行動になっていっても困るし。

三本委員 よろしいですか。先ほどのスマートフォンやゲーム等は、結局は保護者が買い与えた状態で使っているという現実があります。携帯にしても、フィルタリングをしないとイケないですよという風にマスメディアは言っているにも関わらず、保護者が全然フィルタリングもせずに、いつでも通信可能な状況の子供さんもいるという現状のようです。実は、ある方から「子供たちがゲーム漬けだし、外にも出られないからストレスも溜まっていると言って、教育委員会としてはどう考えているのか」という電話がきました。ちょうど前日にテレビニュースで、鹿児島市のお姉さんと弟さんが、一日の時間を、何時から何時は何の時間、何時から何時は休み、というよ

うに時間割を作って、毎日お昼の時間には家庭科で、自分たちでお昼ご飯を作るという時間になっている姿が紹介されました。非常にメリハリをつけることによって、子供たちは自分たちが今までしなかったことを自分がすることによって、料理ができていく喜びも学んでいるので、反対だけしないで、大人の私たちがどういう風に子供たちの環境を作ったらいいか考えましょうよ、とその方にはお話ししました。やはり一日の中でこの時間は掃除の時間、この時間は体を動かす、外で縄跳びを100回する、そしてこの時間は洗濯物を取り込んで畳む時間。そうすることによって、お父さんお母さんへの感謝の気持ちも生まれるし、また、生きる力も出てくるので、保護者の認識を変えるということが大事かなと思います。この子が将来社会に出て、自立できるかどうか、包丁が持てるかどうか、やはりそれを訓練してあげるのも今一番いい時間かなと思います。先程私は食について言いましたけれど、文科省のホームページに、漫画でこれをするといいですよ、これをするとうちの脳にもすごく影響がありますよ、とか保護者が見ても子供たちが見ても非常に分かり易い家庭教育手帳を紹介してあるので、それを何か活用できたらなという風に思う事でした。

岩切議長 校長会がある時でも、現場の先生たちの意見を聞く機会があれば聞いてみてください。制限した方がいいのかどうか。まだ鹿児島県内ではどこも規制している所はないですよ。

藤田教育長 県PTA連合会及び各市町村の連合会で、スマホ等の利用についての、PTAが主体となって標語やポスターを募集したりして、子供たちが作ったものにより啓発をしている所も既に4年、5年位前から取り組んでおります。しかし、実態としては、やはり家庭では難しいのが現状のようです。例えば、9時以降は見ませんとか、本市でも小中一貫教育の良さを活用して、中学校が期末考査、中間考査のテストの時には、小学生もノーテレビデーにしましょう。ノーメディアデーにしましょう。という取組をしております。10時以降はスマホはリビングに置くことなど、一家庭一家訓みたいなルールを作る取組をやっている所もあります。ただ、成果としてはなかなか難しいという反省もあります。単位PTAの取組としても、先ほど三本委員の方からもありましたように、健康と脳の関係でいいですよ、悪いということは明白なものですし、中毒になっていくという、色々な情報提供もしてあります。与えたのは親ですが、その後の躰が難しいという方が大きいですね、課題としては。今市長がおっしゃるように、時間の規制ということ、今後取り組むべきなのか、子供たちにそれ以外の興味のあるものを、或いは自制しながら生活をさせていくという方を強化していくべきなのか、検討し、取り組んで参りたいと思います。

岩切議長 よろしいですかね。他に、軍神さんよかったですか。

軍神委員 働き方改革において、業務の改善については、17ページに書いてありますが、先生たちが子供たちに向き合う時間を増やすことが目的であり、業務の簡素化や効率化と業務改善の意識化ができた時に達成するものだと思います。数値目標等が書いてないように思うんです。これは今の状況では、県と比べたら、薩摩川内市は良い方向に向かっていると考えてよろし

いですか。これからも業務改善はしなければいけないですけど。

学校教育課長 目標としましては、37ページの下に、県の目標があります。正規の勤務時間を超える勤務は月45時間以内ですが、まだ今年度オーバーしている職員が実際おります。目標としては、全ての職員が45時間を超えることがないようにというのがまず一つです。もう一つの目標としては、教職員の80%以上が業務改善が進んでいるという実感を持つこと。あと二年間で本市でも掲げています。

岩切議長 よろしいですか。他にはないですか。思い出したら言ってください。意見も出ましたので、今後、教育委員会事務局の方で整理をするということで、議題2について、承認していただけますか。また修正箇所は委員の人たちには付箋でも付けて渡してください。

教育部長 この修正箇所は来週の教育委員会の中で確認していただきたいと思います。

岩切議長 では、現在のところは承認していただいているんですね。ありがとうございます。ありがとうございました。

(5 会次第3：議題3「令和2年度薩摩川内市教育委員会基本方針（案）」について)

岩切議長 それでは議題3について説明をしてください。

※会議資料に基づき藤田教育長、教育部長以下各課所長が説明

岩切議長 ありがとうございます。今各課の業務について、説明がありましたけれど、委員の皆さん何かご質問はないでしょうか。基本方針については特にないですか。

三本委員 一点いいですか。少年愛護センターの少年なやみ相談の時間について、来所相談が朝8時半から夕方5時15分。そして電話相談が8時半から夜の9時まで、そして土日を除くということなんですが、子供たちがある程度高学年や中学生になったりした時に、夜9時の時間は、親御さんに聞かれたくないこともあるので、どこかに繋がるようにできないのかなと思います。今の時間帯では、現状はどうなのかなと思っています。

社会教育課長 電話相談については、夜間まで延長をして三年位前からやっていますが、夜間の子供からの相談は実績がございません。昼間や夕方の時間帯の対応でやっています。あと、受信が携帯電話ですので、もし相談がきたら着信履歴がありますので対応可能です。

三本委員 分かりました。

藤田教育長 補足しますが、かごしま教育ホットラインというテレホンサービスがあり、カードも全児童生徒に配られています。これは24時間対応でございます。記してある電話番号に掛けますと、全国共通のもので、それが一番近い所の相談センターに行くというシステムが全国的に構築されております。

岩切議長 他にないですか。

上川委員 6ページの社会教育課の、1の(4)の私立幼稚園、認定こども園等の保護者に向けた家庭教育の充実という項目について、初めての取組ですか。もう少し具体的に教えてください。

社会教育課長 先ほど学校教育課から説明しましたが、市立幼稚園には家庭教育学級を設置しておりまして、小学校、中学校同様の取扱いをしております。私立の幼稚園と認定こども園の保護者に向けた家庭教育学級の取組が今の所できておりません。来年度に向けては、特に予算面の課題はありますが、市で開催する家庭教育に係る講演会等が年に二回、三回予定していますので、是非聞きに来てくださいという声掛けを取り組んでいきたいと考えております。また内容の充実も考えております。

岩切議長 他に何かありますか。これもまた、次の教育委員会で審議されると思いますので。もし何かあればその時に協議していただければと思います。この基本方針案については別に意見はないということによろしいですか。では、ここの場ではこの原案どおり承認するということによろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは議題は全て終わりましたが、他に何かないですか。今の議題については、これで終わりです。

(6 会次第3：その他)

岩切議長 その他で何かありますか。かねてから思っているようなことはありませんか。学力について資料を出してあるんですかね。説明をしてもらえれば有り難いですが。

※資料に基づき学校教育課長が説明

岩切議長 今の説明に何かご意見ないですか。この全国の調査の結果については県ごとに公表されるんですね。新聞で報道されます。鹿児島県は全国でも学力は、43、44、45番目とかほとんどが最下位に近いという結果です。鹿児島県の平均よりも薩摩川内市は低いわけですよ。ということは、日本でも低い方に入るんじゃないかと。だから学力と体力については、やっぱり子供たちの教育をしっかりともらって、上げてもらいたい。その方策や環境づくりを含めて、なんとかせんといかんなと思っています。まあトップになるとか、そういうことはなくても、先ほど分析された結果でまた一校一校が点数を上げてくれれば平均点が上がるということですので、色々分析をしながら、指導してもらおうということがいいと思います。また五年後は、誰がここにいらっしゃるか分かりませんが、「お一上がったな。」とか、「ぶんとだったがな。」とか結果が出ると思います。とにかく学校ですから、薩摩川内市の学力をちゃんと上げるんだというのを聞いたかったものですから、私からデータを出してくれと言って出してもらいました。ただデータを見るだけではなくて、先ほど課長からあったとおり、分析した結果こういう指導をした方がいいという方向が出てくれば、それだ

けで有り難いと思っています。

他にないですか。

軍神委員 今のこのコロナ禍の状況、学力向上にも関係あるんですけど、よく親に聞かれるのは、うちの子がちょっと困っているという話なんです。それは、今学校に行っていないから、勉強は大丈夫だろうか、もう夏休みはなくてもいいんだけど、とか。これは全国的な事なので、文科省や県教委等関係することであり、授業時数の確保とか色々な課題があると思うんですけど、休みをカットして学校に出るとか、状況によってはあるかなと思います。そこはどうでしょうかね。

藤田教育長 本日の文部科学大臣の会見では、4月に予定されておりました、全国学力学習状況調査は取りやめという決定が下されました。これはやはり、学習の準備が全国的にできていないということが理由です。同じように保護者も学校も、その実態としては感じていると思います。これまで出された案では、現学年のものは、次の学年で補習をします。また、小6、中3においては、次の高校ないし、中学校で補習をしていくということが方針として出されております。それから、夏季休業中を短縮して云々ということは、具体的にまだ出されておられません。授業時数の確保という観点からは、新学習指導要領が告示された後に、九州各都市でも既に8月22日、23日位から2学期が始まっているところもあります。授業時数の確保という点では、そういう案も考えられるのかなと。ただ、現時点では具体的にはまだ出ておられません。ただし、本県においては、公教育という観点からしますと、本市が短くして、他はこれまでと同じようにしてということはないだろうと思っています。県教育長会等での意見交換もしながら、進めていきたいと思っています。

岩切議長 他にないですか。この会議を一年前にして、私も一年ぶりに出てきましたので、この一年間で、色んな報道を見ていて感じたことを委員の皆さん方に話をし、またいつか課題にしてもらいたいと思うんですけど。

まず、文部科学省が出した小中高の暴力件数が、全国で72,940件あったそうです。その特徴は、一番高校生が多くて、中学生、小学生の順で一般的にはなるんですが、近年小学校が中学校を上回る、高校を上回る暴力件数が増えてきているという報道だったんです。昔は高校までなかったんですけど、中学校、小学校の子供でさえも手を出すという時代になってきて、これは同級生同士若しくは同じ学年じゃなくても色んな喧嘩をしたりする件数がどんどん増えて、低学年で増えてきているということのようです。これらも何か対策をとっていかねばいけないのかな、と思います。県教育委員会が出した、いじめに関する新聞報道では、鹿児島県で認知されたのは、小中学校で7,727件。一年前と比べると、四倍増えているという件数だそうです。子供たちのそういうことがないような教育をしないといけないのかなと思います。特に千葉県の流山市では、いじめにあって三年間、教育委員会に出してもそのまま、学校も現場もそのまま、ということで、自殺したというような報道もあります。ご承知のとおり、びっくりするのが神戸市であった、先生同士のいじめの事案であり、4人

で1人の先生をいじめたという事案です。その後、結果的に神戸市長が給料は払わないという条例を作って可決された事もありました。相当な教育者である人たちがいじめをするというのは、大きな教育問題だろうと思います。鹿児島県でもつい2、3日前に報道されたとおり、鹿児島地区で校長が、先生たちに暴言を吐いたり、色んな事をしている事件です。これではもう学校の現場が成り立たないのではないかと思いますので、こういうことも教育委員会としては、校長に対して指導して行ってほしいなと思います。

それとまた、いい報道では、麴町中学校の事は一年前にも話をしましたが、学校改革を独自でした中学校の事例と秋田県東成瀬村の事です。この小中学校とも学力は飛びぬけて日本一。三年間も日本一であるという学校の紹介もテレビで出たんですが、どういう方法をとられているのかわかりませんが、このような実態調査をしてほしいですね。それと近年では、学校名は忘れましたけれど、子供たちが掃除の時間30分間一切物を言わないで掃除をする学校です。これが集中力を高めることになったり、学力が上がるというような報道もされましたので、こういういい所を調査するなりして、委員の皆さん方が勉強されて、うちの市ではこういうことを取り入れようとか、学校に逆に提案するぐらいの委員会での発言をしていただければ大変有り難いなと思います。

それから、『鹿児島の教育』という県公聴会の広報誌は、教育委員会と全校長先生に配られるんですね。私が感動したのは、30年度の6月号で教育長が出されたもので、「明るい学校を作ろう、でないとな学力も上がらない」というようなことをここに書いてあります。私は教育長にこの人ならと思ったのは、これを読んで、こういう教育長が指導されたら、学校もどんどん伸びるなと感じたものですから。皆さん方は読んでおられないでしょう。後でコピーをしてやってください。

それと、これは「日笠山」という、永利小学校の校長が書かれた学校だよりですが、永利校区は全家庭に配って、回覧で回ってきます。この中で、今までの学び方、これからの学び方という内容をインターネットで調べて、校長が保護者に出しているんですね。これも一つの警鐘だろうなと思っています。良い、悪いはわかりませんが、参考にしながら各学校がそれぞれ特色のある学校を作るためには、やっぱり校長が地域とどれだけ親しんでいくかということも大事だろうと思いましたので。これもまた後でコピーをして委員にはやってください。

私は、こういうことを感じておりますので、委員の皆さん方も、かねてから気になった事は教育委員会の中でどんどん発言してもらって、教育委員会としてはそれをまた基にして、委員の発言については実行してもらうような体制を今後作っていただければ有り難いと思います。私は一年に一回しか出てこないもので、十分把握はしていないのでわかりませんが、やっぱりみんなで素晴らしい学校を作っていただければ大変有り難いと思いますからよろしくお願いします。以上で私の役割は終わりますので、後は事務局の方でお願いします。

(7 会次第4：閉会)

総務課長 それでは以上を持ちまして、令和元年度第1回薩摩川内市総合教育会議を終了させていただきます。皆さん長時間にわたりありがとうございました。

【閉会時刻 16：20】